

台東区都市計画マスタープラン策定委員会 第3回資料
地域別カルテ及び区内全域参考図

平成 28 年 12 月 27 日 (火)
14 : 00 ~ 16 : 00

目 次

【地域別カルテ】

はじめに..... 2

1. 上野地域..... 4

2. 谷中地域..... 8

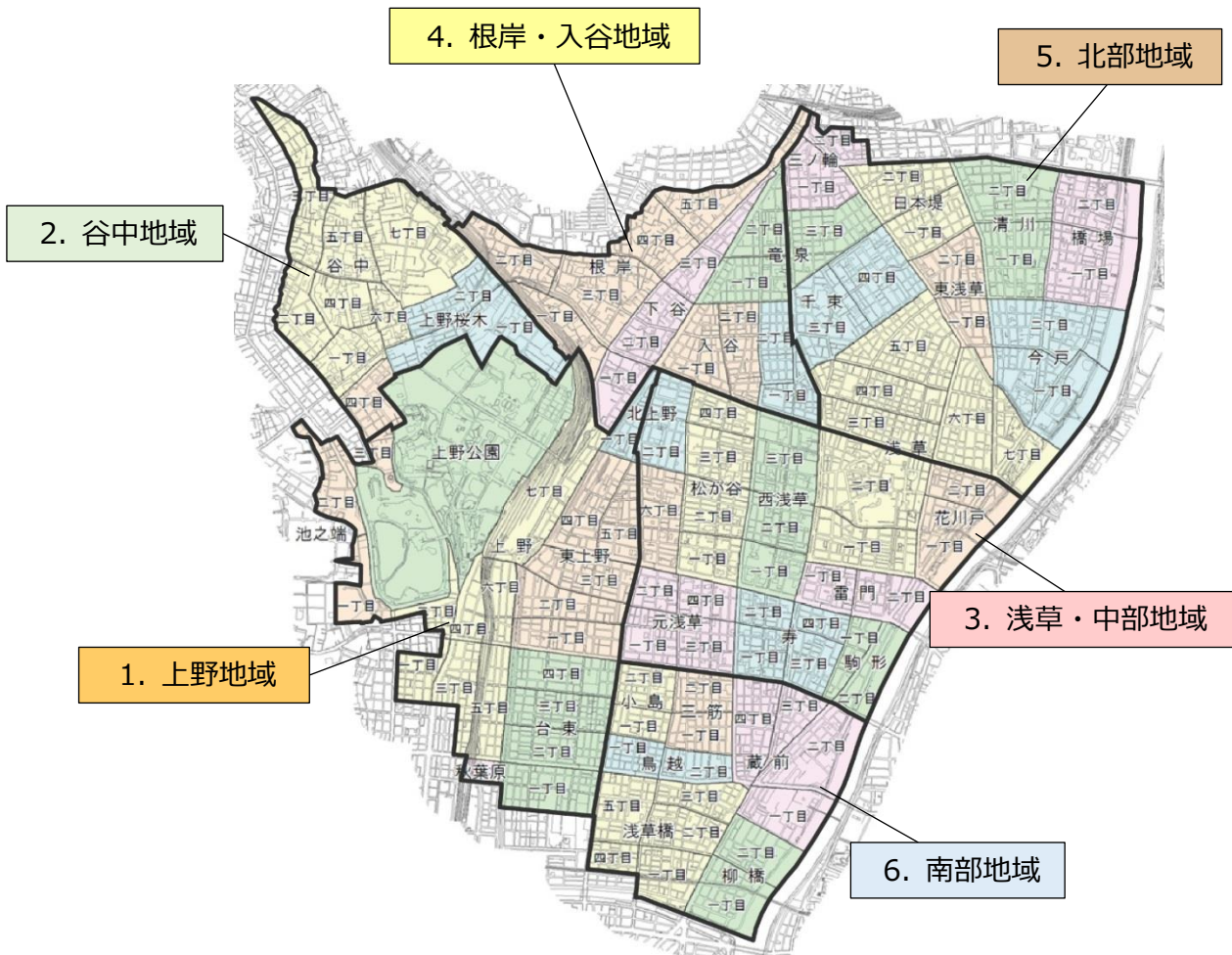
3. 浅草・中部地域..... 12

4. 根岸・入谷地域..... 16

5. 北部地域..... 20

6. 南部地域..... 24

【区内全域参考図】..... 29



はじめに

【項目及び出典一覧】

※は一部掲載又は別添資料に掲載した項目

歴史的形成経緯（地域別歴史）

項目	出典	時点
江戸期の町割りによる都市構造	台東区景観計画（平成 23 年度）	—

土地利用（地域資源）

項目	出典	時点
建物現況	平成 23 年度土地利用現況調査	H23
土地利用現況	平成 23 年度土地利用現況調査	H23
用途別延床面積	土地利用現況調査	H23
用途別土地面積	土地利用現況調査	H23
集合住宅建築戸数	台東区住宅課	H20～H24
建物高さ	平成 23 年度土地利用現況調査	H23
地区類型	台東区都市づくりのための基礎資料	H23

住民・住環境

項目	出典	時点
人口密度	国勢調査	H22
人口推移	国勢調査	H12,H17,H22
人口増減率	国勢調査	H17/H12,H22/H17
外国人人口	国勢調査	H12,H17,H22
世帯類型別構成	国勢調査	H22
子育て世帯・高齢者世帯比率	国勢調査	H22
空き家分布	空き家実態調査	H25
通勤人口・通学人口	国勢調査	H22

基盤（道路、交通）

項目	出典	時点
都市計画道路※	台東区都市計画課（平成 25 年度）、第四次事業化計画における優先整備路線（東京都）	H25
細街路	台東区建築課（平成 25 年度）	H25

防災

項目	出典	時点
地域危険度※	地震に関する地域危険度測定調査（第 7 回） （平成 25 年 9 月公表）東京都都市整備局	H25
不燃領域率※	東京都の市街地状況調査（平成 21 年度）	H21
水害履歴	台東区道路管理課（平成 25 年度）	H25
建物築年	平成 23 年度土地利用現況調査	H23

みどり・環境

項目	出典	時点
緑被率	台東区環境課	H22 (面積は H22)
1人当り公園面積	台東区公園課	H27 (人口は H22)

景観・文化・観光

項目	出典	時点
景観資源マップ (景観・文化・観光)	台東区資料より作成	
年間観光客数・外国人観光客数	台東区観光統計・マーケティング調査	H20,H22,H24,H26

産業

項目	出典	時点
事業所数及び従業者数	経済センサス (平成 18 年は事業所統計)	H18,H21,H24,H26
産業別従業者数	経済センサス	H21,H24,H26

まちづくりの動向

項目	出典	時点
公共用地の活用予定	大規模用地の活用構想、台東区、平成 23 年 9 月	H23

区民を対象とした意識調査における特徴的な傾向

項目	出典	時点
台東区のまちづくり まちづくりへの参加等への関心	台東区の将来都市像に関する意識調査	H28



1. 上野地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

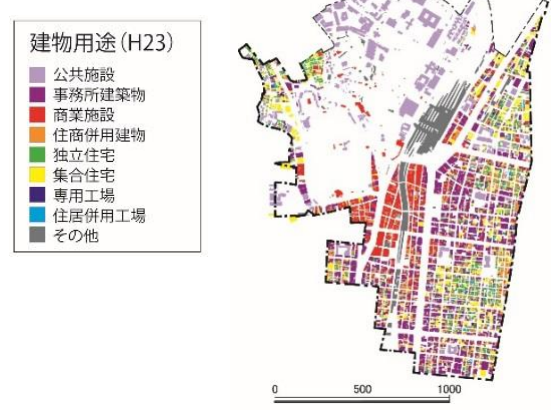
～江戸時代	上野の山は寛永寺の境内にあり、桜の名称として親しまれ、参道は繁華街として発展した。御徒町駅周辺～小島町一带には、幕府御徒組の屋敷がおかれた。
明治～戦前	上野台地は日本初の公園の一つとして整備された。日本を代表する文化の森が形成され、東京藝術大学が設立された。上野駅は明治16年に開業、昭和2年には東洋初の地下鉄が上野～浅草間に開業した。
戦後	アメ横が出現し、三味線堀周辺には庶民の娯楽施設が集積した。上野駅は「東京とふるさとをつなぐ心の拠り所」となった。
現在	上野駅は長年間ターミナル駅、鉄道の要衝として発達するが、近年その機能が低下しつつある。2016年には、国立西洋美術館が世界文化遺産に登録決定した。アメ横の年末の賑いは風物詩として定着している。

江戸期の町割りによる都市構造

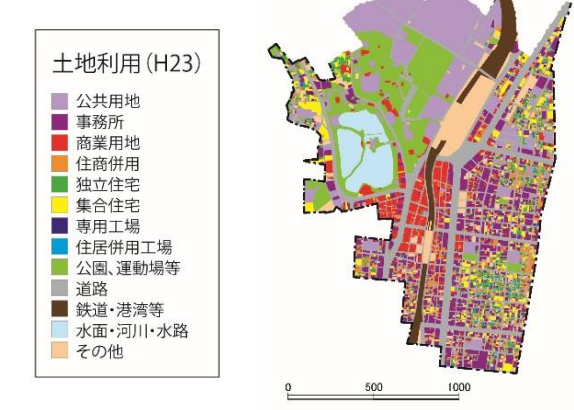


土地利用(地域資源)

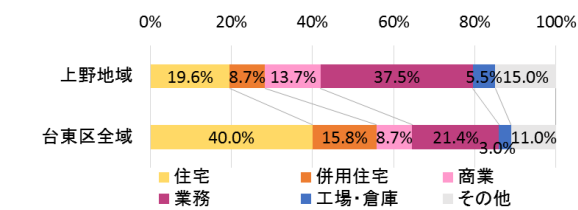
建物現況 (H23)



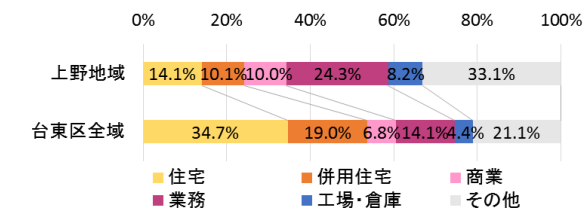
土地利用現況 (H23)



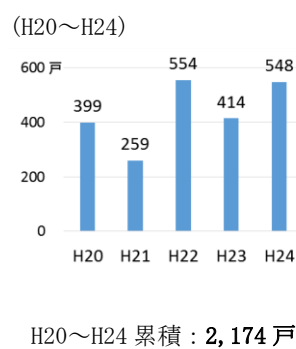
用途別延床面積 (H23)



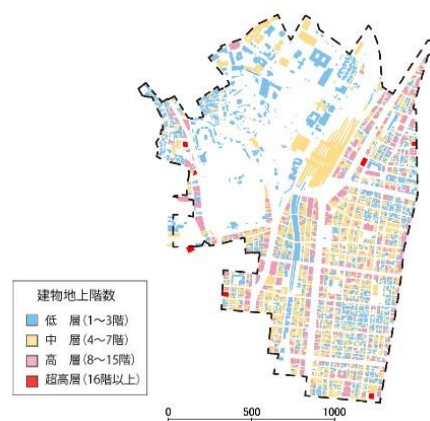
用途別土地面積 (H23)



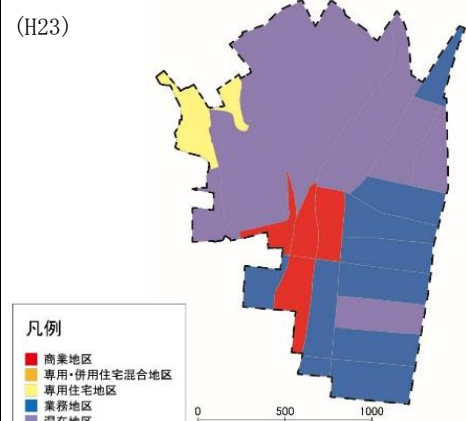
集合住宅建築戸数



建物高さ (H23)



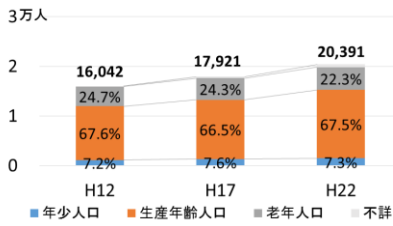
地区類型



住民・住環境

人口密度 (H22) 上野地域 83.85 人/ha (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

人口推移 (H12, H17, H22)

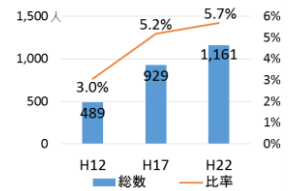


人口増減率

(H17/H12, H22/H17)

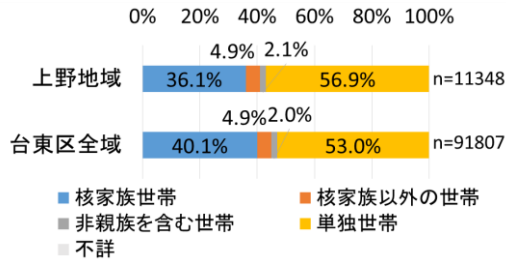
	H17/H12	H22/H17
上野地域	11.7%	13.8%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)

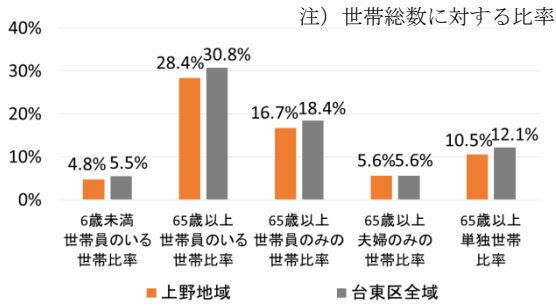


注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

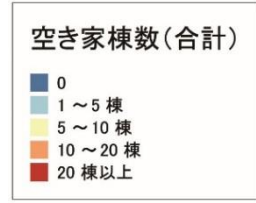
世帯類型別構成 (H22)



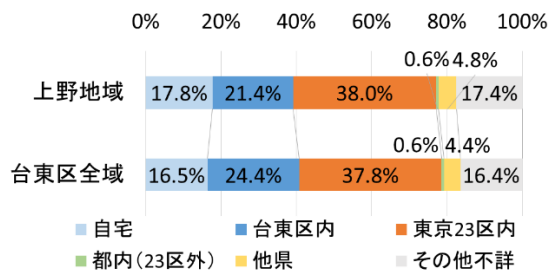
子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)



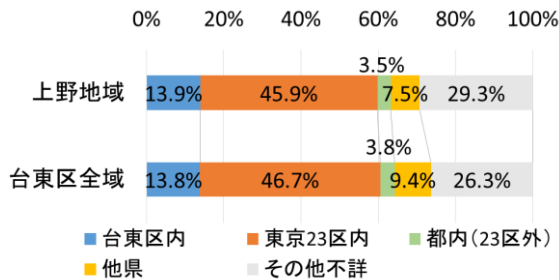
空き家分布 (H25)



通勤人口 (H22)



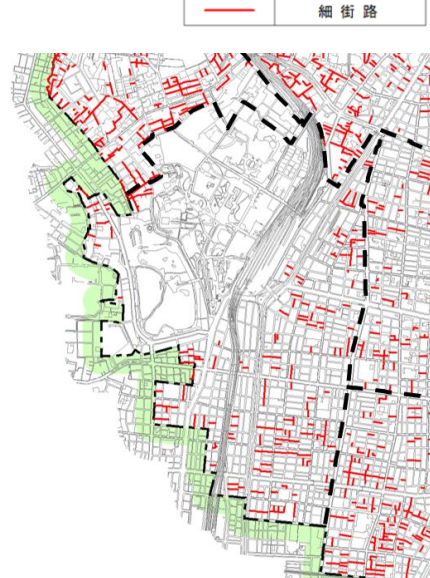
通学人口 (H22)



基盤(道路、交通)

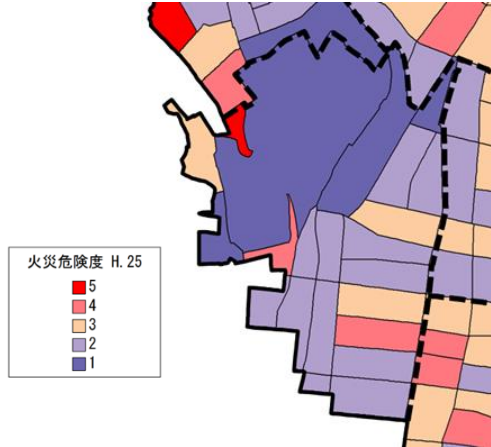
都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

細街路 (H25)



防災

火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)



※参考

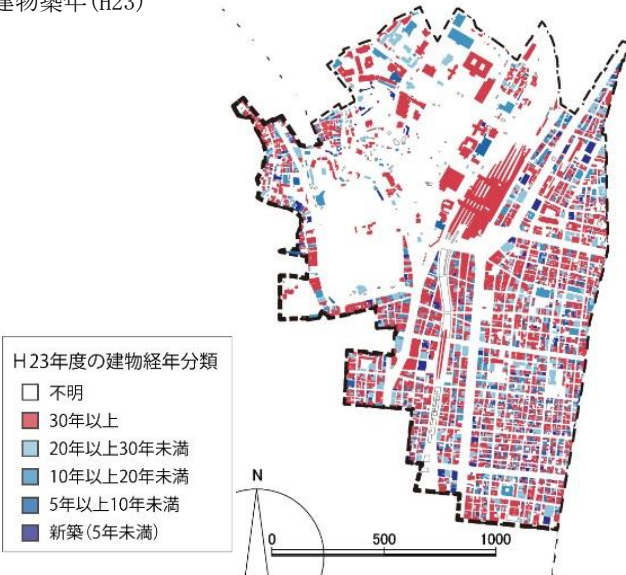
東京湾北部地震における上野駅周辺の帰宅困難者について

滞留者は約 **10.7 万人**
うち、旅行者、買い物客等の「行き場のない帰宅困難者」は約 **2.2 万人**と推計

注) 上野駅を起点とした半径 4km² の範囲の人を対象

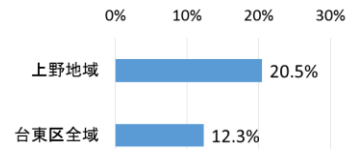
出典：上野駅周辺エリア防災計画、平成 27 年 9 月、上野駅周辺滞留者対策推進協議会より

建物築年 (H23)

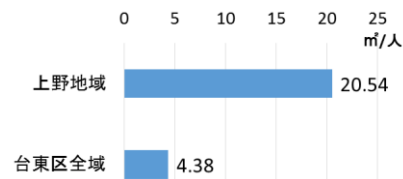


みどり・環境

緑被率 (H22)

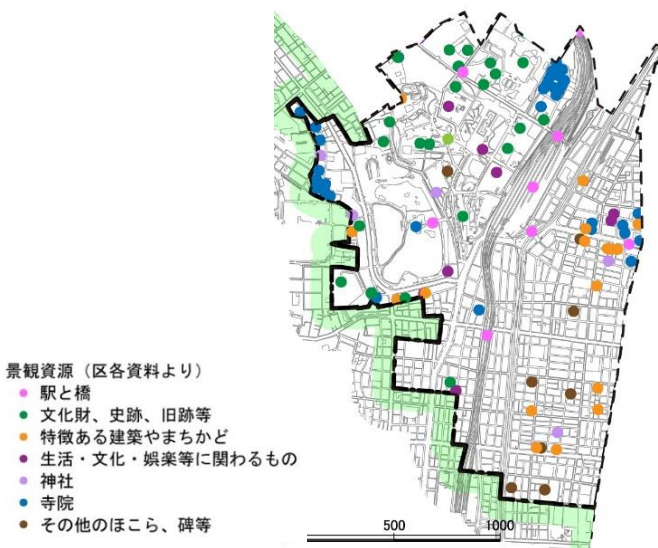


1人当り公園面積 (H27)



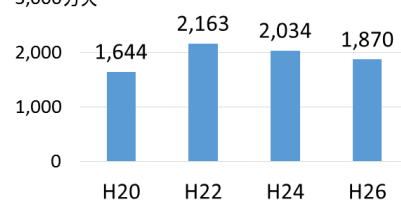
景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

[上野地区] 注) 地区別時系列比較のために、外国人年間宿泊観光客を除外



外国人観光客数 (H26)

上野地区：約 **182 万人**

(※台東区全域：約 **525 万人**)

外国人観光客比率：約 **9.7%**

産業	
事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26) <p>注) 公務を含まない。</p>	産業別従業者数(H21, H24, H26)
まちづくりの動向	
協議会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上野駅周辺全地区整備推進協議会(上野駅周辺地区) ・ 御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会(御徒町駅広場周辺) ・ 副都心上野まちづくり協議会(上野・御徒町駅周辺地区) ・ 上野御徒町台東4丁目西地区市街地再開発準備組合(台東4-9~12・32・33番地) ・ 御徒町駅東側区域まちづくり協議会(上野5-15~27番地) ・ 東上野5丁目6番街づくり協議会(東上野5-6) ・ 入谷南部まちづくり協議会(北上野1・2丁目、松が谷3-10~23・4丁目)※ ・ 谷中地区まちづくり協議会(谷中1~7丁目、上野桜木1・2丁目、池之端3・4丁目)※ <p>注) ()内は対象区域を示す。※は対象区域が隣接地域とまたがる。</p>
地区計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御徒町駅周辺地区地区計画 ・ 秋葉原地区地区計画
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御徒町駅南口西地区土地区画整理事業(上記地区計画区域内) ・ 御徒町駅北口西地区土地区画整理事業(上記地区計画区域内) ・ 東上野二丁目特定街区 ・ 上野「文化の杜」新構想推進会議 ・ 上野地下駐車場の整備 ・ 区役所周辺のまちづくり(「東上野四・五丁目地区まちづくりガイドライン」の策定) ・ JR上野駅公園口周辺整備
公共用地の活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧下谷小学校
意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)	
「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区全体の結果と大きな違いは見られなかった。
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な交通環境の整備に向けて、「身近な移動手段(レンタルサイクル)の拡充」や、「駅やバス停留所・車両等のバリアフリー化」などを求める意見が多かった。 ・ 災害に強いまちづくりに向け、「幹線道路沿い等の建物の不燃化・耐震化の推進」を求める意見が多かった。 ・ みどりなどによる潤いのあるまちづくりに向け、「大規模な開発とあわせた広場づくりや緑化の推進」を求める意見が多かった。
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> ・ エリアマネジメントなど「まちの価値を継続的に向上させるための取り組み」を行ってみたいといった意見が多かった。

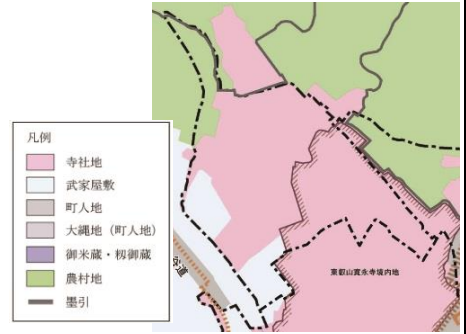


2. 谷中地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	上野の山に寛永寺が建立され、その後、神田寺町から多くの寺院が移転し、現在の寺町が形成された。
明治～戦前	1874年に開設された谷中墓地は後に谷中霊園となり、上野公園からつながる広大な緑地空間が形成された。
戦後	震災や戦災を免れ、懐かしい下町風景、狭い路地、寺社と低層の街並み等が調和し、地域の魅力をつくり出した。坂が多く、中でも「夕やけだんだん」は、坂からの景色が個性的な地域資源の一つとなっている。
現在	良好な住環境を守る住民意識が高く、コミュニティ活動も活発である。一方、狭い路地と低層の街並みがゆえに、防災面での貧弱さが喫緊の課題となっている。

江戸期の町割りによる都市構造

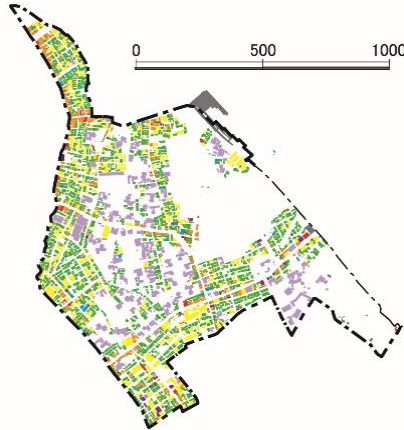


土地利用(地域資源)

建物現況(H23)

建物用途(H23)

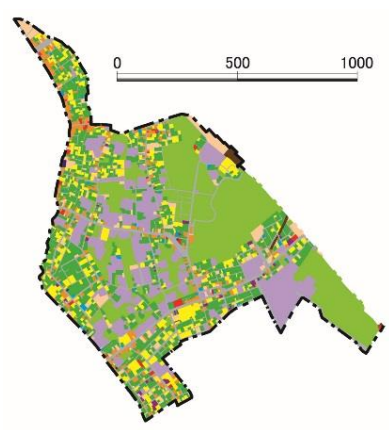
- 公共施設
- 事務所建築物
- 商業施設
- 住商併用建物
- 独立住宅
- 集合住宅
- 専用工場
- 住居併用工場
- その他



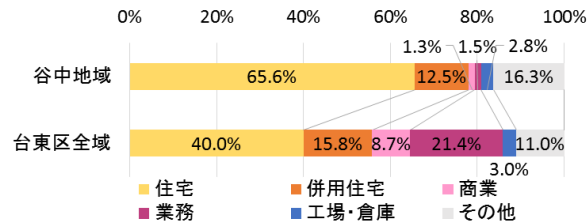
土地利用現況(H23)

土地利用(H23)

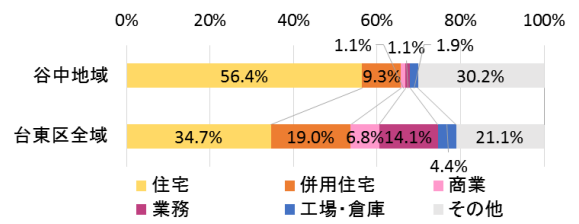
- 公共用地
- 事務所
- 商業用地
- 住商併用
- 独立住宅
- 集合住宅
- 専用工場
- 住居併用工場
- 公園、運動場等
- 道路
- 鉄道・港湾等
- 水面・河川・水路
- その他



用途別延床面積(H23)

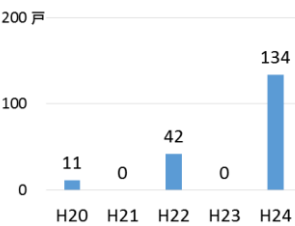


用途別土地面積(H23)



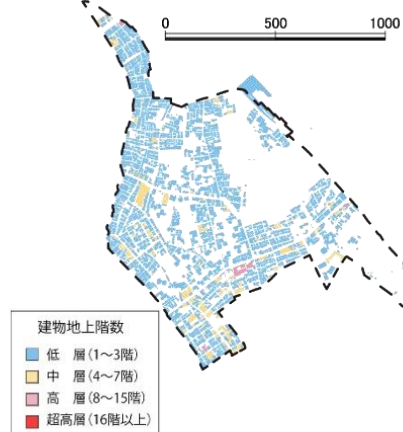
集合住宅建築戸数

(H20～H24)

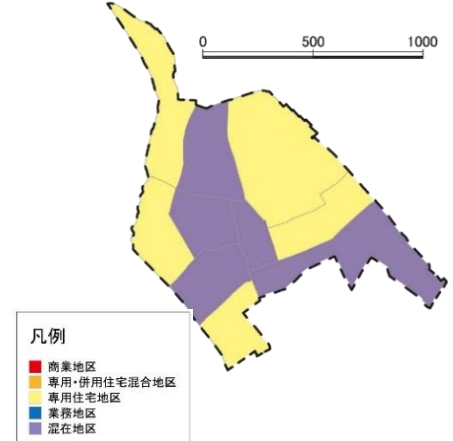


H20～H24 累積：187戸

建物高さ(H23)



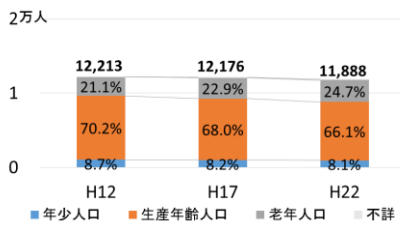
地区類型(H23)



住民・住環境

人口密度 (H22) 谷中地域 **121.90 人/ha** (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

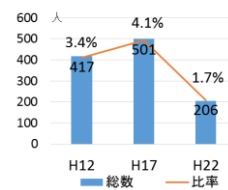
人口推移 (H12, H17, H22)



人口増減率
(H17/H12, H22/H17)

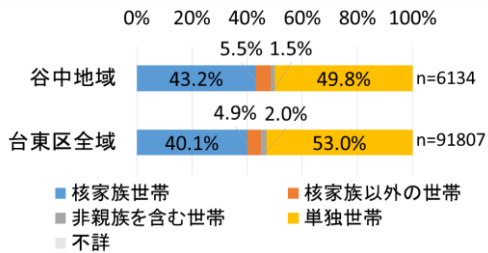
	H17/H12	H22/H17
谷中地域	-0.8%	-2.4%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)

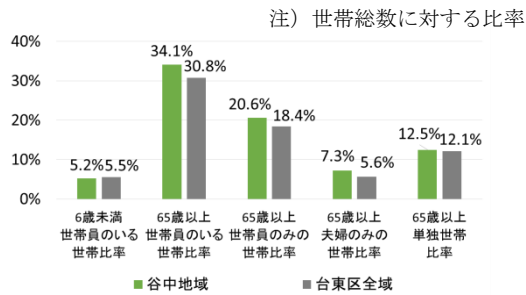


注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

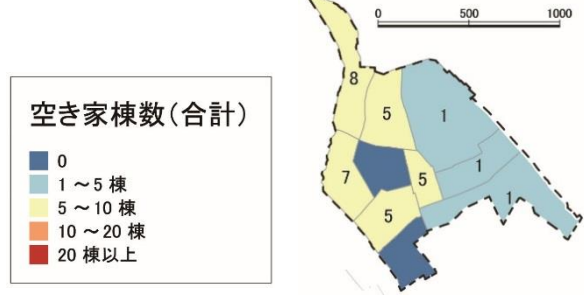
世帯類型別構成 (H22)



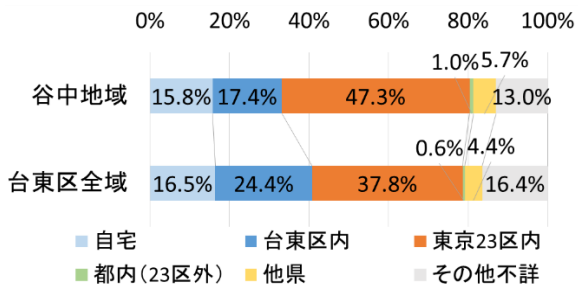
子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)



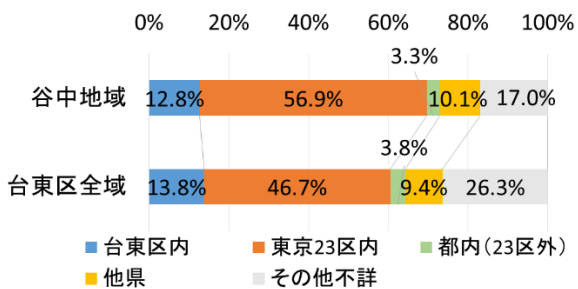
空き家分布 (H25)



通勤人口 (H22)



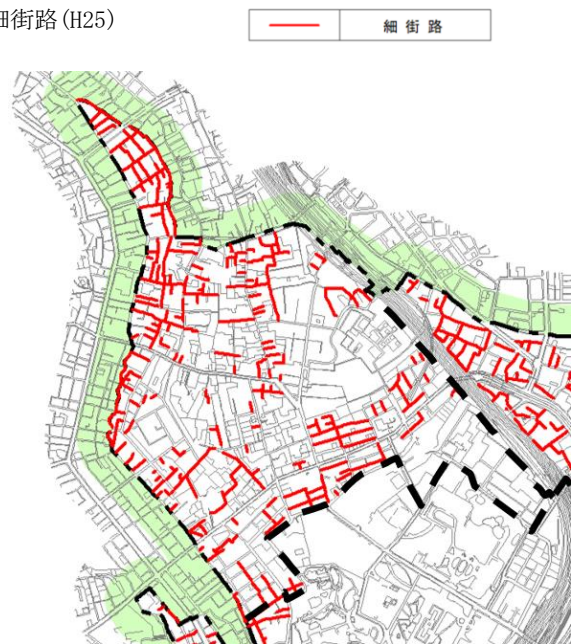
通学人口 (H22)



基盤(道路、交通)

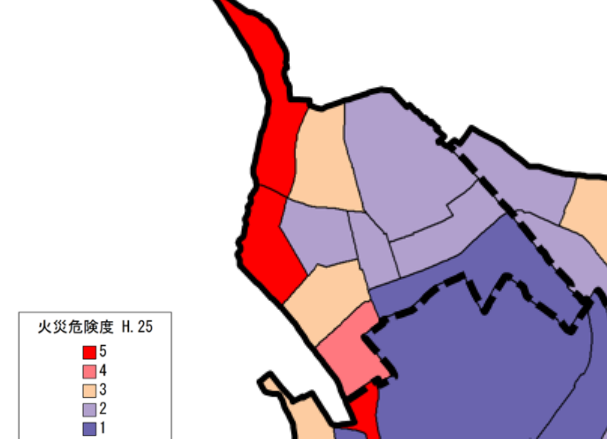
都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

細街路 (H25)



防災

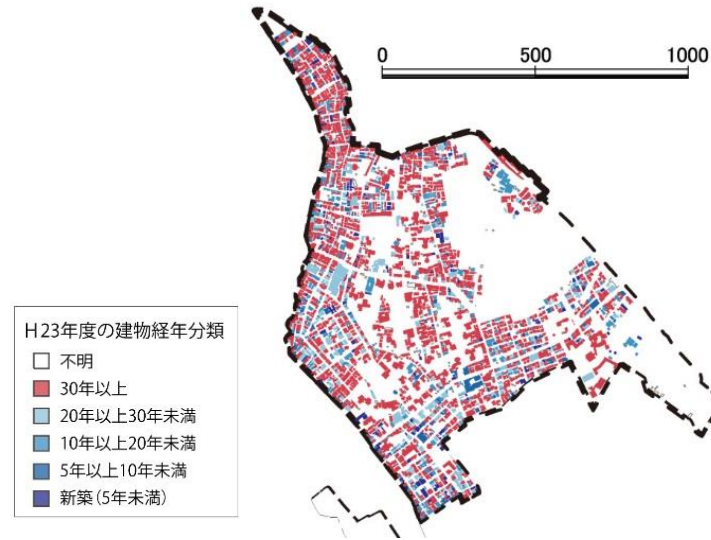
火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)

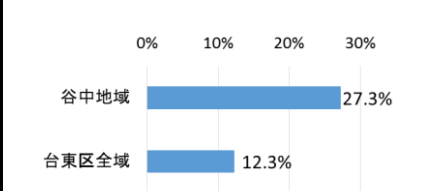


建築物築年 (H23)

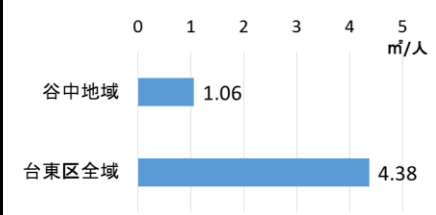


みどり・環境

緑被率 (H22)

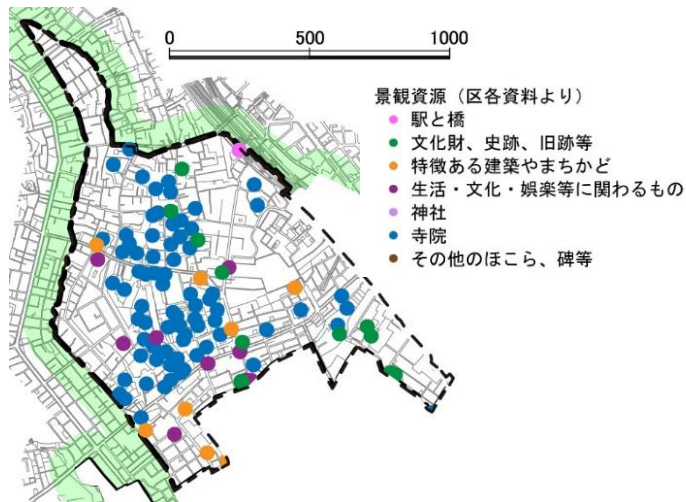


1人当たり公園面積 (H27)



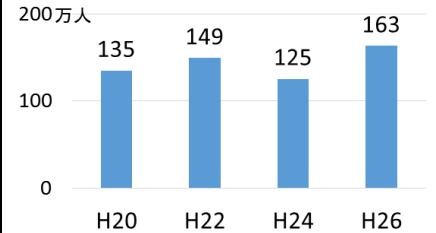
景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



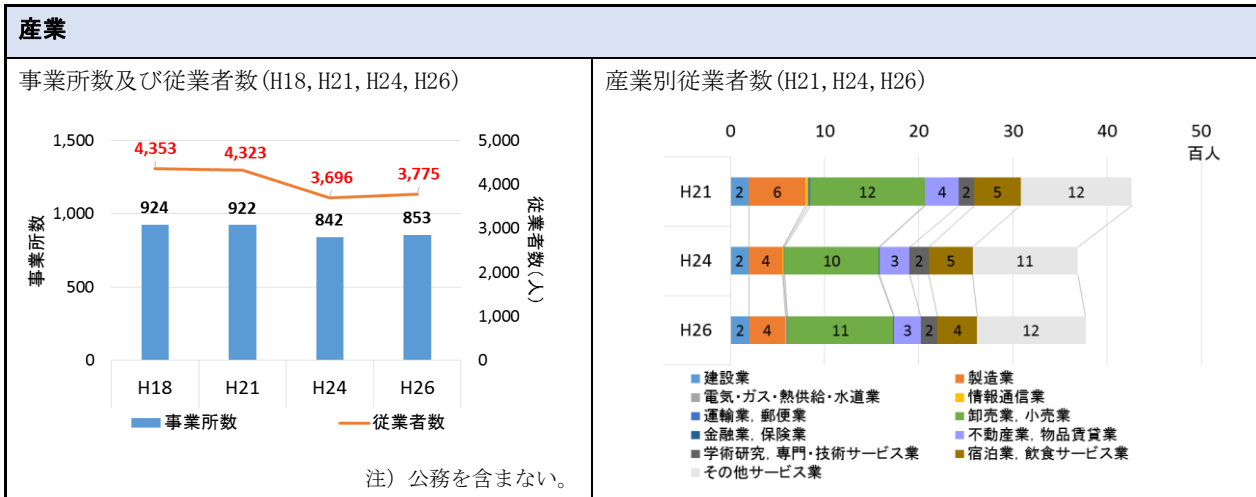
年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

[谷中地区] 注) 地区別時系列比較のために、外国人年間宿泊観光客を除外



外国人観光客数 (H26)

谷中地区：約 10 万人
 (※台東区全域：約 525 万人)
 外国人観光客比率：約 6.0%



まちづくりの動向	
協議会等	谷中地区まちづくり協議会(谷中一～七丁目、上野桜木一・二丁目、池之端三・四丁目) 注) ()内は対象区域を示す。
地区計画等	現在検討中
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 谷中2・3・5丁目地区密集住宅市街地整備事業 谷中2・3・5丁目地区における不燃化特区の指定 谷中地区都市再生整備計画 谷中三崎坂建築協定の締結 新たな防火規制区域の指定
公共用地の活用可能性	特になし
意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)	
「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> 区全体の結果に対して「文化・芸術が盛んな都市」とする意見が多かった。
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な秩序ある土地利用に向けて、「良好な住環境を維持するため、建てられる建物の高さや大きさ、建物の用途等の規制の強化」を求める意見が多かった。 また、住み続けられるまちづくりに向けても、「落ち着きのある閑静な住環境の整備」を求める意見が多かった。 災害に強いまちづくりに向けて、「市街地の不燃化の促進」を求める意見が多かった。 みどりなどによる潤いのあるまちづくりに向けて、「寺社林などの歴史的・文化的なみどりの保全と活用」を求める意見が多かった。
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> 「まちの将来像やビジョンなどの作成」に関する活動を行ってみたいといった意見が多かった。また、協議会への参加意向も、積極的に参加したいとの意見が多かった。



3. 浅草・中部地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

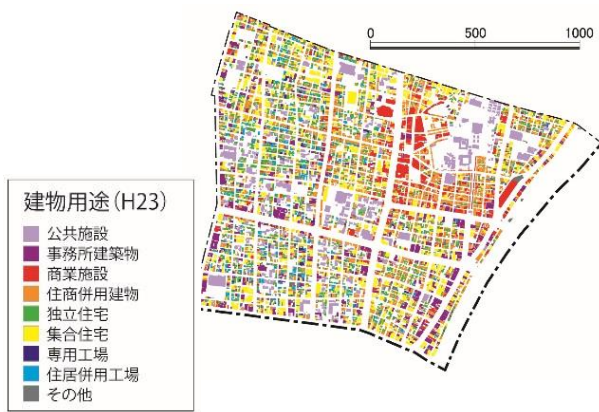
～江戸時代	浅草寺を中心として発展し、庶民の行楽街、繁華街として栄えた。浅草寺周辺の南側は、町屋と寺院が多く寺町が形成され、職人も多く居住していた。北側は浅草田圃と呼ばれる田園地帯が広がり、吉原の移転や猿若三座の芝居興行等により独自の文化が開花した。
明治～戦前	凌雲閣や六区等の歓楽街が出現し、娯楽・芸能の中心として現在にも受け継がれている。大正時代には、西側に道具商、古物商の街が形成された。
戦後～現在	江戸時代から引き継いできた文化を基礎に、伝統的な祭や行事が年間を通して開催されている。江戸の面影が色濃く残る庶民的な行楽地として、国際観光地の地位を築き上げた。居住地としては、TX 開業により都心回帰が進んでいる。

江戸期の町割りによる都市構造

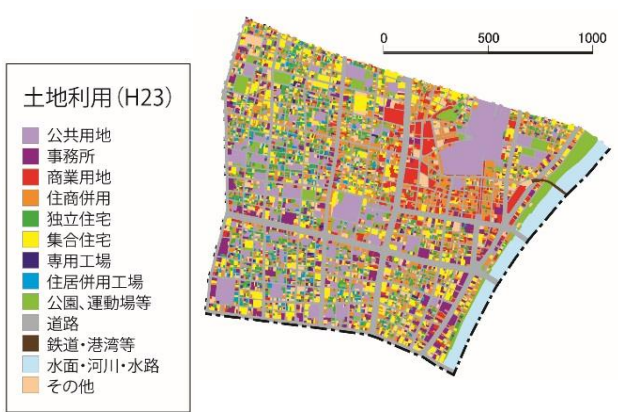


土地利用(地域資源)

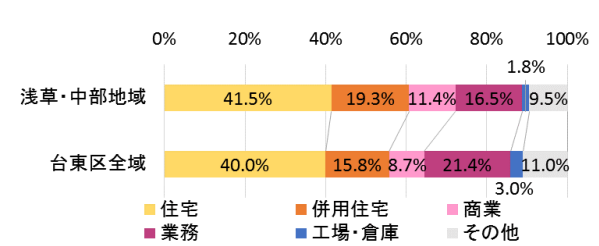
建物現況(H23)



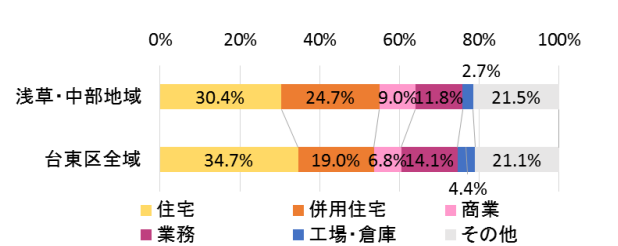
土地利用現況(H23)



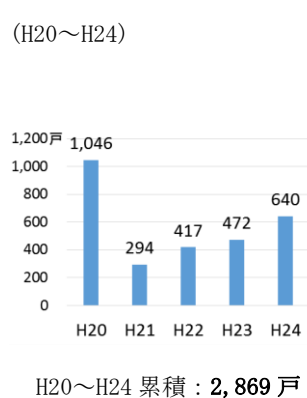
用途別延床面積(H23)



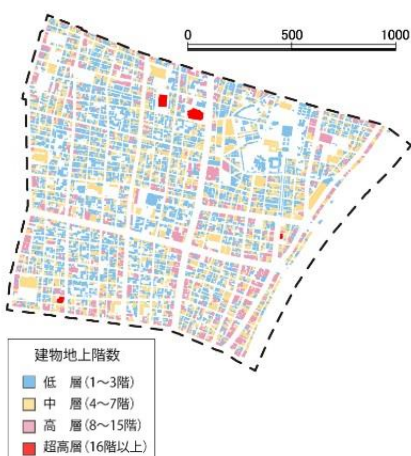
用途別土地面積(H23)



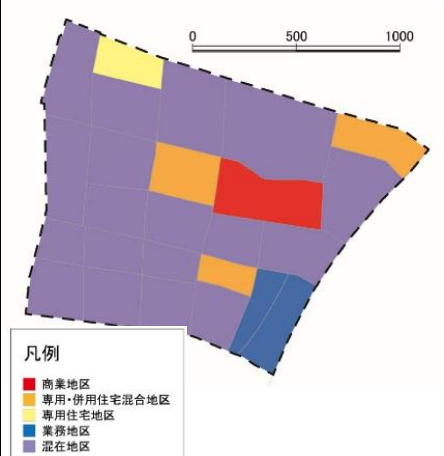
集合住宅建築戸数



建物高さ(H23)



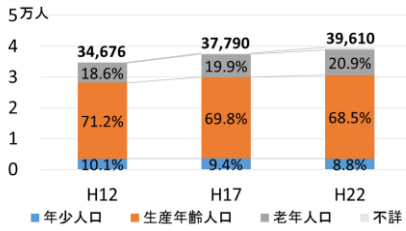
地区類型(H23)



住民・住環境

人口密度 (H22) 浅草・中部地域 **200.80 人/ha** (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

人口推移 (H12, H17, H22)

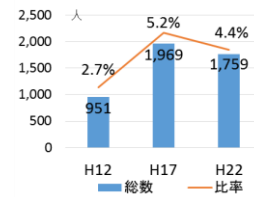


人口増減率

(H17/H12, H22/H17)

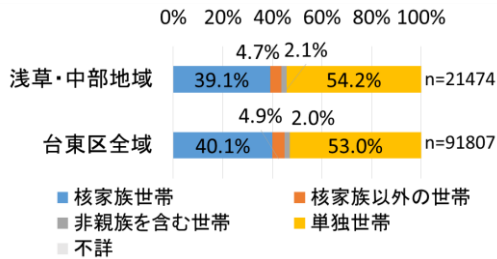
	H17/H12	H22/H17
浅草・中部地域	9.0%	4.8%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)

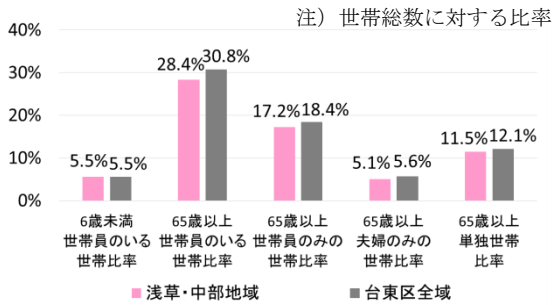


注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

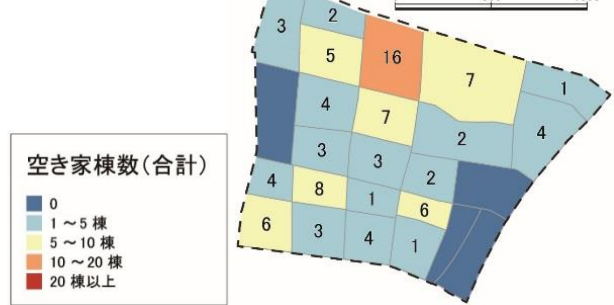
世帯類型別構成 (H22)



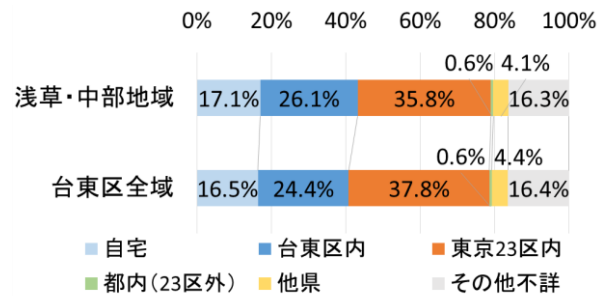
子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)



空き家分布 (H25)



通勤人口 (H22)



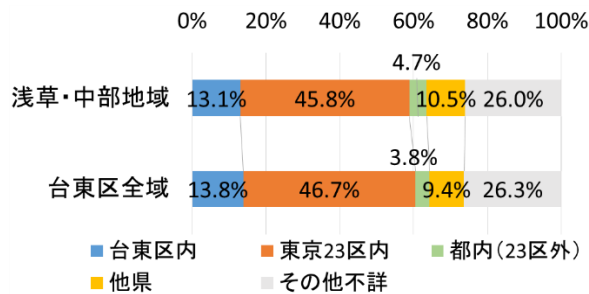
基盤(道路、交通)

都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

細街路 (H25)

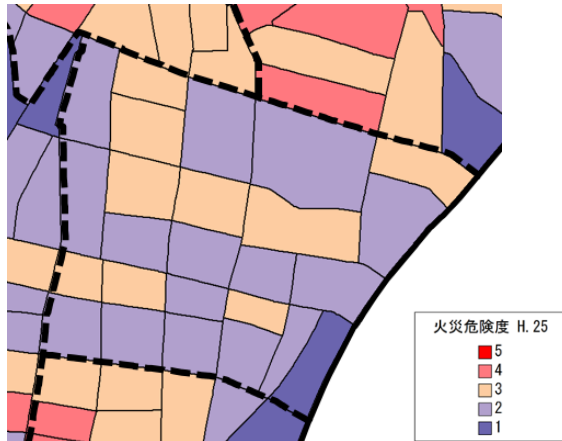


通学人口 (H22)



防災

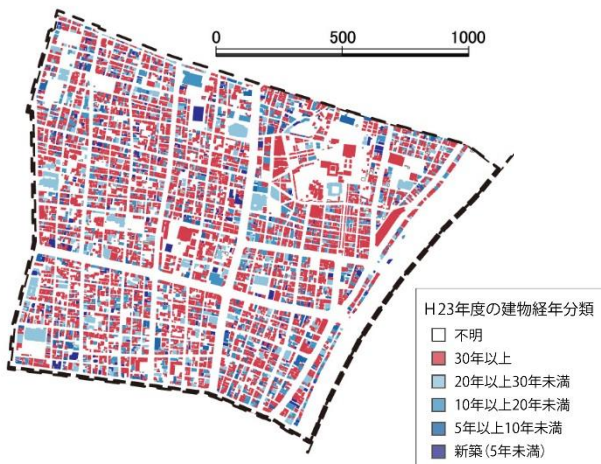
火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)

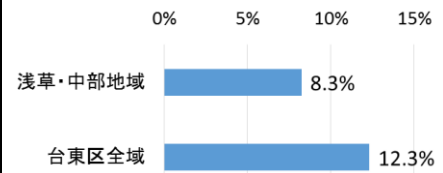


建物築年 (H23)

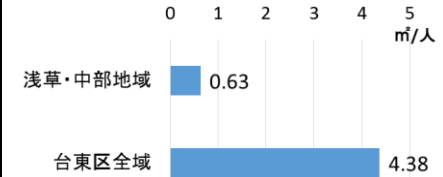


みどり・環境

緑被率 (H22)

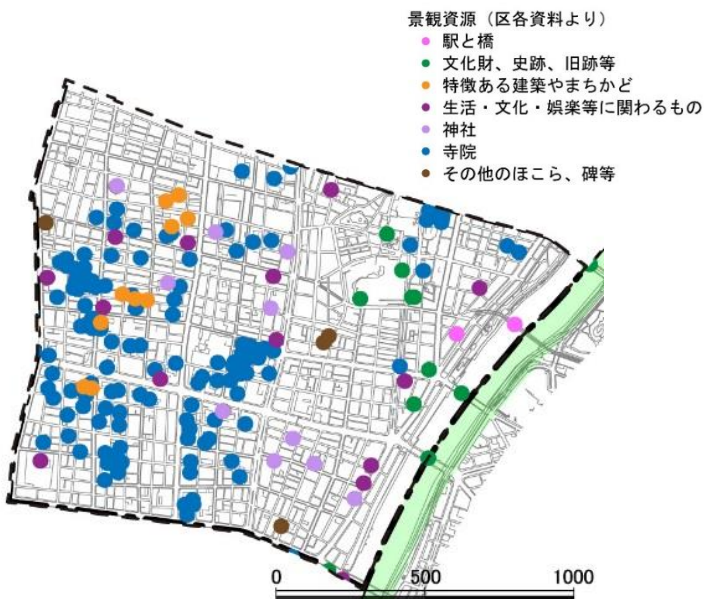


1人当り公園面積 (H27)



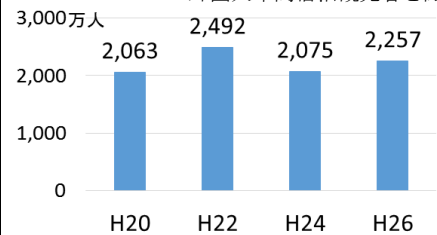
景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



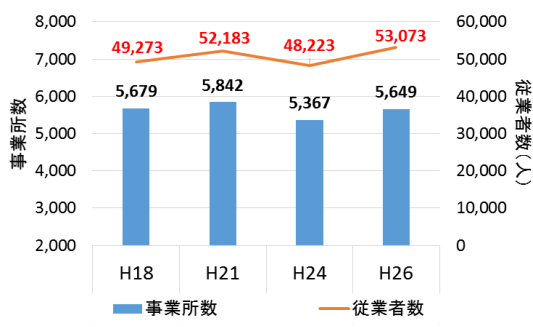
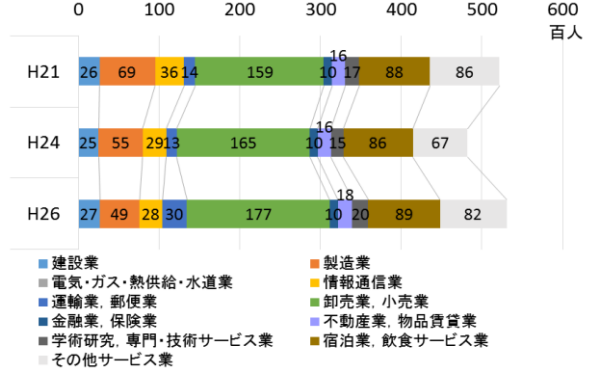
年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

[浅草地区] 注) 地区別時系列比較のために、外国人年間宿泊観光客を除外



外国人観光客数 (H26)

浅草地区：約 326 万人
 (※台東区全域：約 525 万人)
 外国人観光客比率：約 14.4%

産業	
事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26)  <p>注) 公務を含まない。</p>	産業別従業者数(H21, H24, H26) 
まちづくりの動向	
協議会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅草地区観光まちづくり推進協議会(浅草地域) ・ 入谷南部まちづくり協議会(北上野一・二丁目、松が谷3-10~23・四丁目)※ <p>注) ()内は対象区域を示す。※は対象区域が隣接地域とまたがる。</p>
地区計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅草六区地区地区計画 ・ 景観まちづくり協定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝法院通り江戸まちづくり景観協定 ・ 伝法院通り東商店会景観協定 ・ 浅草花やしきエンターテイメント通り景観協定 ・ 雷門東部商店会景観協定 ・ かつぱ橋本通り公西会“かつぱの皿の乾かない環境づくり”のための景観協定 ・ 奥山おまいりまち景観協定
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隅田川周辺の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親水テラスの整備 ・ 浅草と日の出栈橋、お台場を結ぶ「ホテルナライン」の就航 ・ 浅草東参道二天門防災船着場の供用開始 ・ オープンカフェの開業 ・ 浅草地区都市再生整備計画 ・ 雷門地下駐車場の整備 ・ 浅草文化観光センターの整備 ・ 浅草駅の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台東区バリアフリー協議会の浅草駅ターミナル駅部会における、バリアフリー整備の検討
公共用地の活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧上野忍岡高校用地
意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)	
「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区全体の結果と大きな違いは見られなかった。
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用しやすい道路の整備に向けて、「駐輪場の整備等による放置自転車の解消」を求める意見が多かった。 ・ 台東区の観光の振興に向けて、「観光バスの駐車場の整備」を求める意見が多かった。
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会への参加意向については、「参加したいがまちづくり協議会の存在を知らない、または地元にもまちづくり協議会がない」との意見が多かった。



4. 根岸・入谷地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	古くは入谷田圃と呼ばれ、朝顔の鉢植え栽培に入谷の土が適していることから、植木屋が集まり、朝顔の市がたつようになった。江戸中期には、寺院や商人の寮、文人墨客の隠居所が増えた。三ノ輪は、奥州街道の江戸の玄関口の一つとして栄えた。
明治～戦前	風雅の歴史が受け継がれ、この地に住む文人による「根岸派」という文学活動が行われた。朝顔市を見物したあと根岸の名物を味わう庶民の楽しみが生まれた。家具職人が多く住み、竜泉あたりには、大商人の別宅が多く見られた。
戦後～現在	文人墨客の風致の歴史が途切れ、現在はその面影がほとんど残っていない。また、震災・戦災を免れた地域の防災強化のみならず、水害を防ぐ基盤整備が必要とされている。

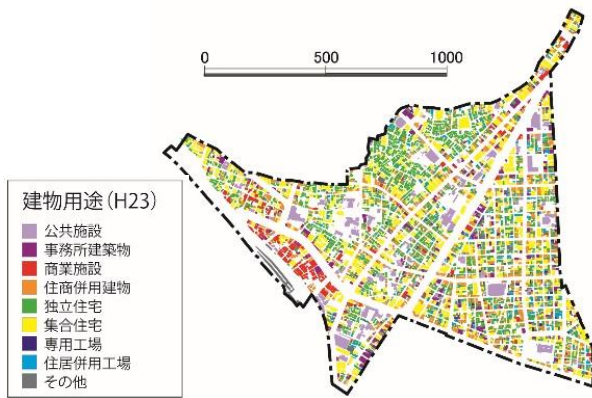
江戸期の町割りによる都市構造



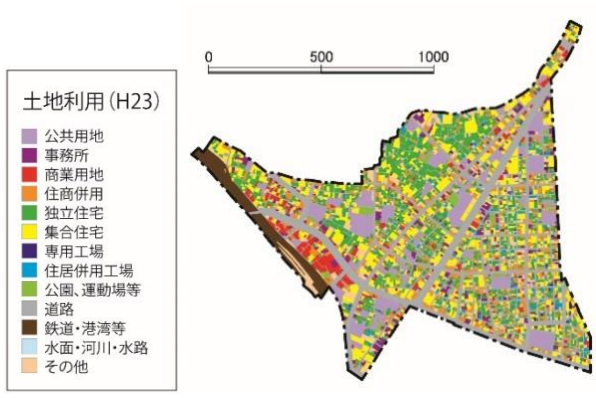
- 凡例
- 寺社地
 - 武家屋敷
 - 町人地
 - 大縄地(町人地)
 - 御米蔵・枳御蔵
 - 農耕地
 - 農耕地
 - 墨引

土地利用(地域資源)

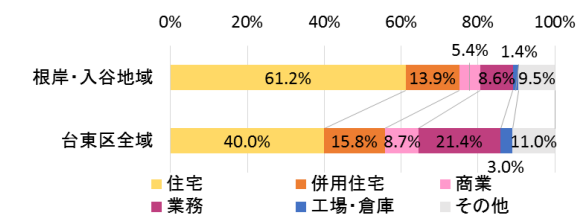
建物現況(H23)



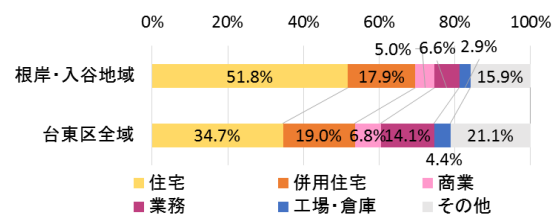
土地利用現況(H23)



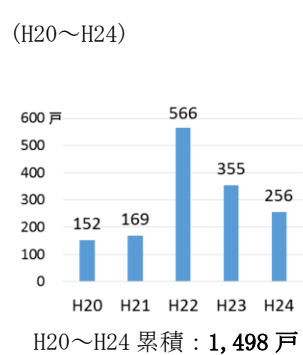
用途別延床面積(H23)



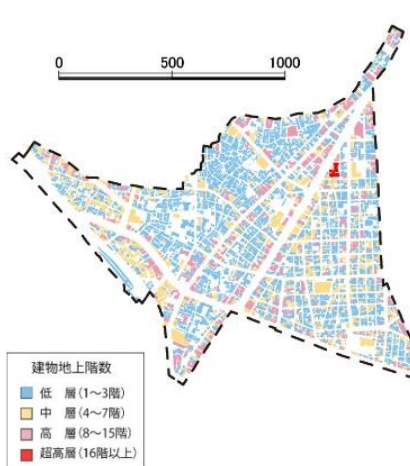
用途別土地面積(H23)



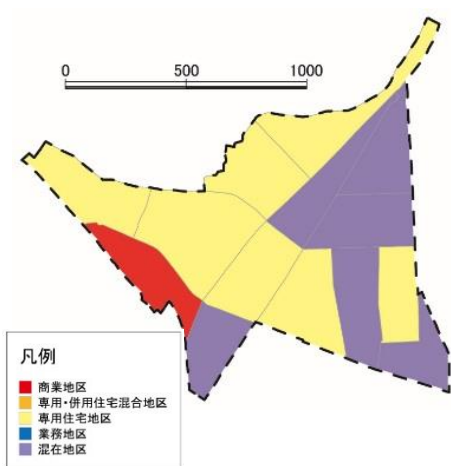
集合住宅建築戸数



建物高さ(H23)



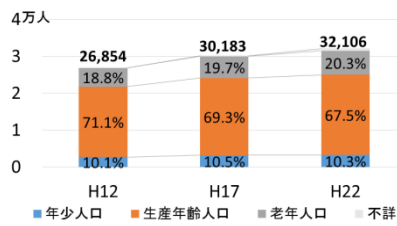
地区類型(H23)



住民・住環境

人口密度 (H22) 根岸・入谷地域 **268.86 人/ha** (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

人口推移 (H12, H17, H22)

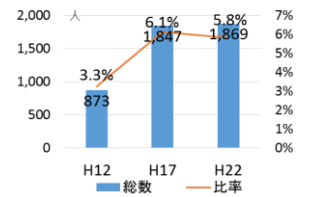


人口増減率

(H17/H12, H22/H17)

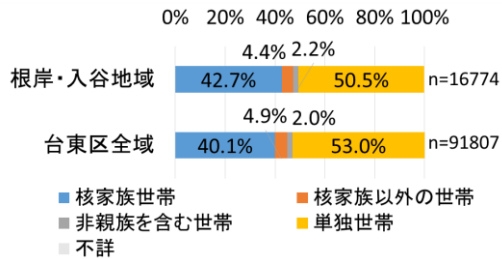
	H17/H12	H22/H17
根岸・入谷地域	12.4%	6.4%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)



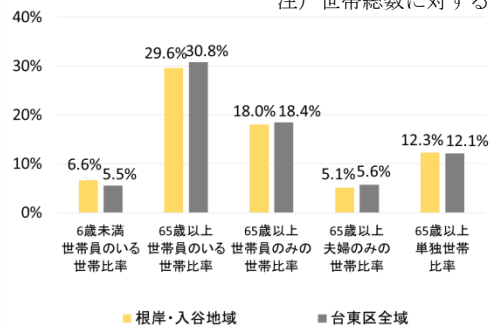
注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

世帯類型別構成 (H22)

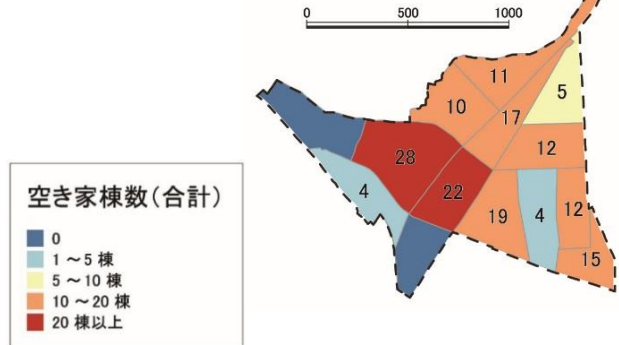


子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)

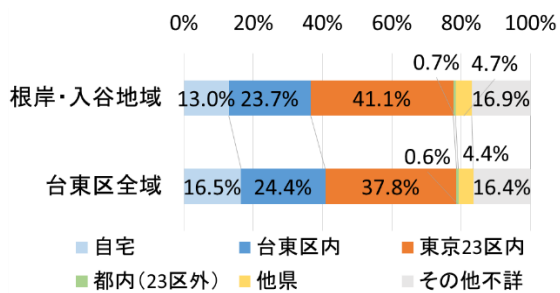
注) 世帯総数に対する比率



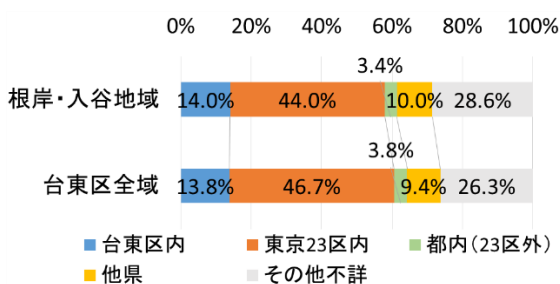
空き家分布 (H25)



通勤人口 (H22)



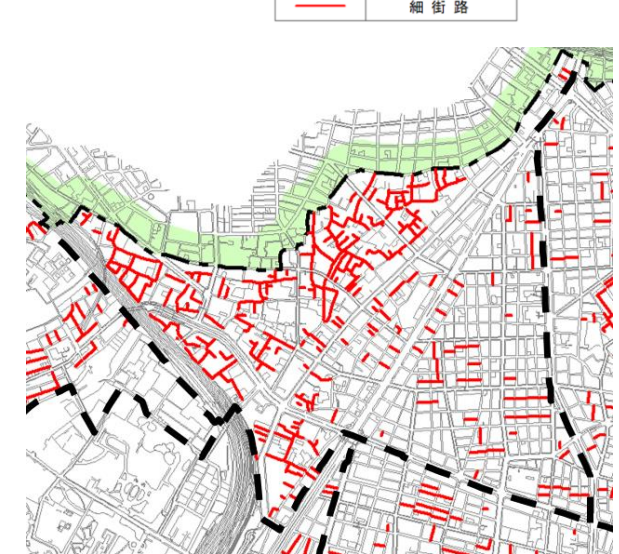
通学人口 (H22)



基盤(道路、交通)

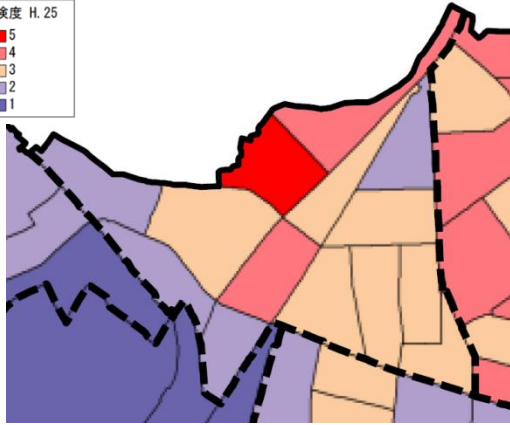
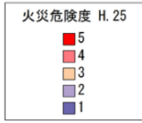
都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

細街路 (H25)

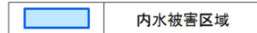


防災

火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)

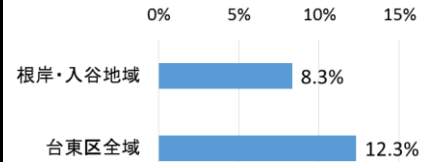


建物築年 (H23)

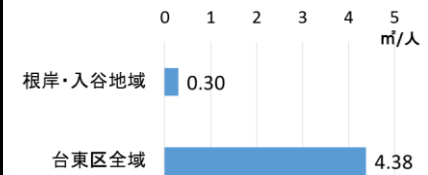


みどり・環境

緑被率 (H22)

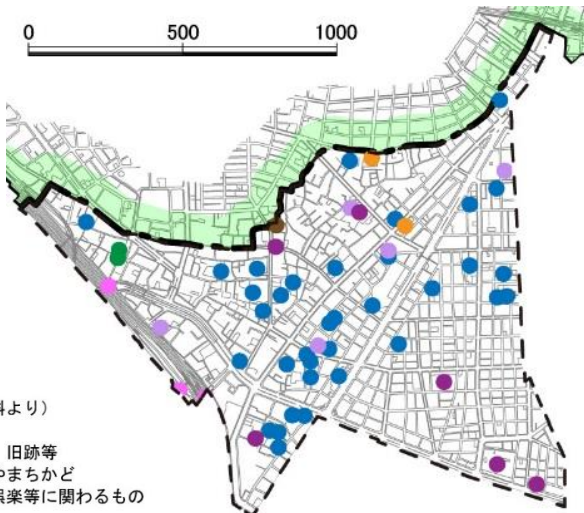
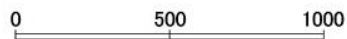


1人当たり公園面積 (H27)



景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



- 景観資源 (区各資料より)
- 駅と橋
 - 文化財、史跡、旧跡等
 - 特徴ある建築やまちかど
 - 生活・文化・娯楽等に関わるもの
 - 神社
 - 寺院
 - その他のほこら、碑等

年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

(該当データなし)

外国人観光客数 (H26)

(該当データなし)

産業																																																													
<p>事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26)</p> <table border="1"> <caption>事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業所数</th> <th>従業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>2,445</td> <td>15,857</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>2,512</td> <td>17,117</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2,239</td> <td>16,567</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2,248</td> <td>16,244</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 公務を含まない。</p>	年度	事業所数	従業者数	H18	2,445	15,857	H21	2,512	17,117	H24	2,239	16,567	H26	2,248	16,244	<p>産業別従業者数(H21, H24, H26)</p> <table border="1"> <caption>産業別従業者数(H21, H24, H26)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>建設業</th> <th>電気・ガス・熱供給・水道業</th> <th>運輸業・郵便業</th> <th>金融業・保険業</th> <th>学術研究・専門・技術サービス業</th> <th>製造業</th> <th>情報通信業</th> <th>卸売業・小売業</th> <th>不動産業・物品賃貸業</th> <th>宿泊業・飲食サービス業</th> <th>その他サービス業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>10</td> <td>19</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>53</td> <td>26</td> <td>9</td> <td>23</td> <td>37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>52</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>53</td> <td>26</td> <td>6</td> <td>22</td> <td>40</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	建設業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸業・郵便業	金融業・保険業	学術研究・専門・技術サービス業	製造業	情報通信業	卸売業・小売業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	その他サービス業	H21	10	19	3	4	53	26	9	23	37		H24	9	15	2	5	4	52	27	8	22	39	H26	10	17	1	1	53	26	6	22	40	
年度	事業所数	従業者数																																																											
H18	2,445	15,857																																																											
H21	2,512	17,117																																																											
H24	2,239	16,567																																																											
H26	2,248	16,244																																																											
年度	建設業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸業・郵便業	金融業・保険業	学術研究・専門・技術サービス業	製造業	情報通信業	卸売業・小売業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	その他サービス業																																																		
H21	10	19	3	4	53	26	9	23	37																																																				
H24	9	15	2	5	4	52	27	8	22	39																																																			
H26	10	17	1	1	53	26	6	22	40																																																				
まちづくりの動向																																																													
協議会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鶯谷駅周辺まちづくり協議会(根岸一・二・三丁目) ・ 根岸3・4・5丁目地区まちづくり協議会(根岸三・四・五丁目) <p>注) ()内は対象区域を示す。</p>																																																												
地区計画等	—																																																												
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根岸3・4・5丁目密集住宅市街地整備事業 ・ 新たな防火規制区域の指定 																																																												
公共用地の活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根岸五丁目用地 																																																												
意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)																																																													
「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区全体の結果と大きな違いは見られなかった。 																																																												
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区全体の結果と大きな違いは見られなかったが、強いて言えば、快適な交通環境の整備に向けて、「バス路線網の再編や運行本数の改善、定時運行の確保」を求める意見が多かった。 																																																												
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会への参加意向については、「参加したいが時間がない」との意見が多かった。 																																																												

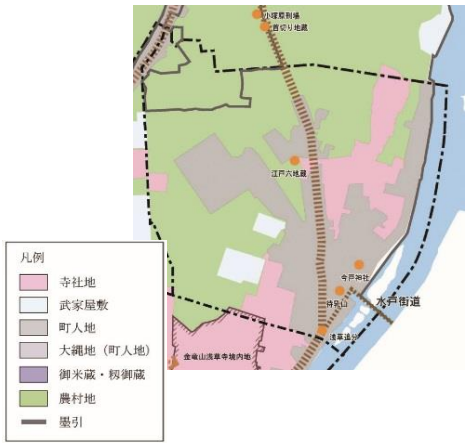


5. 北部地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

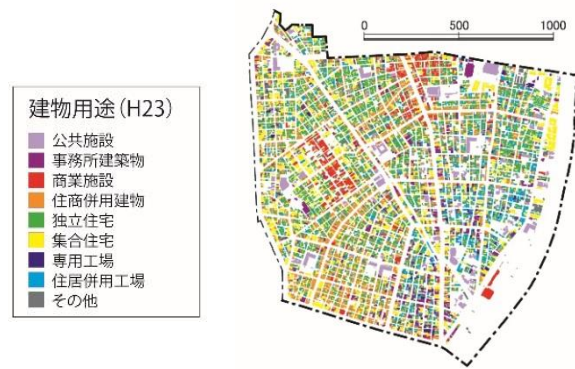
～江戸時代	日本橋から吉原が移転し、誘客は大川(隅田川)から山谷堀を舟で訪れる等、特異な地区であった。浅草寺の北側には猿若三社があり、江戸随一の芝居興行街となっていた。今戸や橋場周辺では、今戸焼が作られていた。日本堤周辺は、隅田川の氾濫原となっていた。奥州街道と日光街道の江戸への入口として宿場町が形成された。
明治～戦前	宿場町に安宿や長屋が建ちはじめた。
戦後	戦後から高度経済成長期にかけて、簡易宿泊所の存在と労働力需要を背景に、仕事を求める人が集まってきた。革産業の町工場が集積し、職住近接の街として栄えた。
現在	産業構造の変化、労働需要の減少等により、活気が失われつつある。しかし、隣接する白鬚西地区市街地再開発事業やTX南千住駅開業等により、転換期を迎えている。

江戸期の町割りによる都市構造

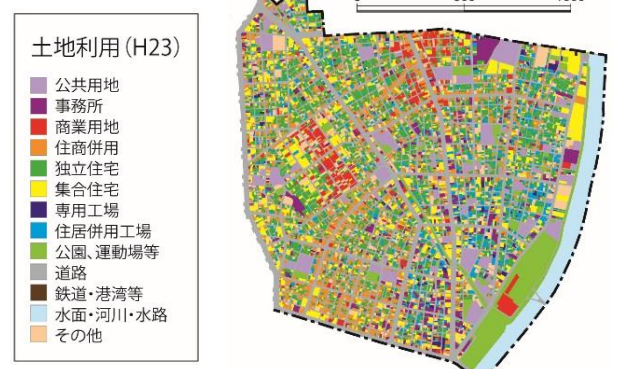


土地利用(地域資源)

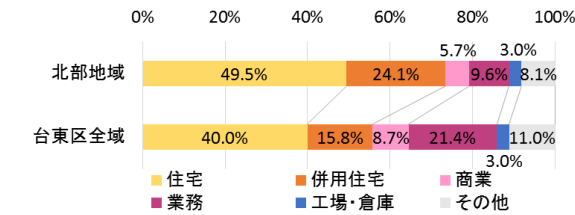
建物現況(H23)



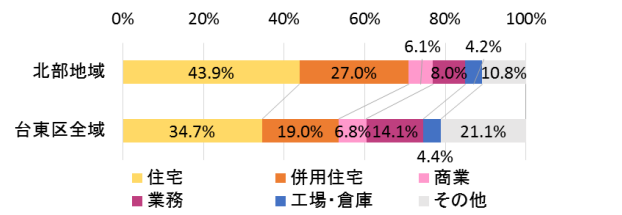
土地利用現況(H23)



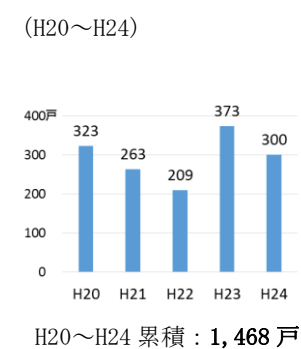
用途別延床面積(H23)



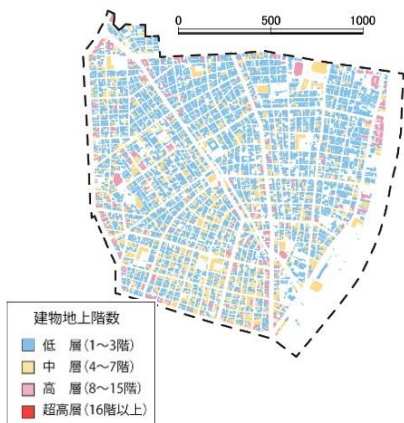
用途別土地面積(H23)



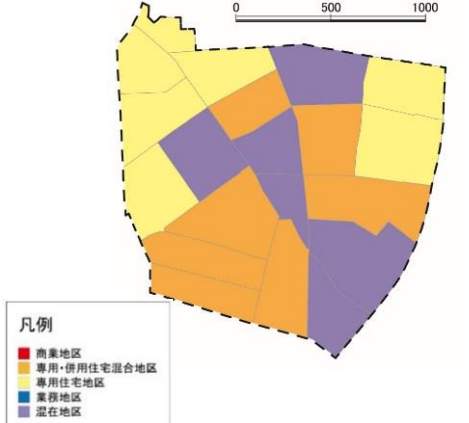
集合住宅建築戸数



建物高さ(H23)



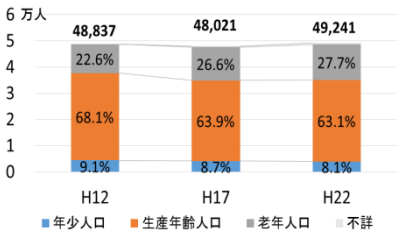
地区類型(H23)



住民・住環境

人口密度 (H22) 北部地域 **215.82 人/ha** (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

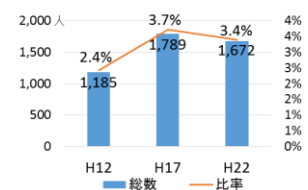
人口推移 (H12, H17, H22)



人口増減率

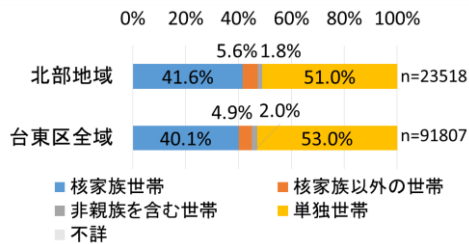
	H17/H12	H22/H17
北部地域	-1.7%	2.5%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)

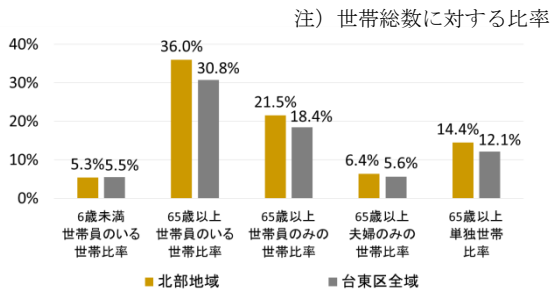


注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

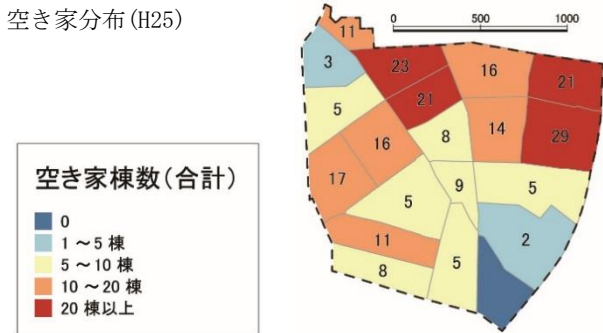
世帯類型別構成 (H22)



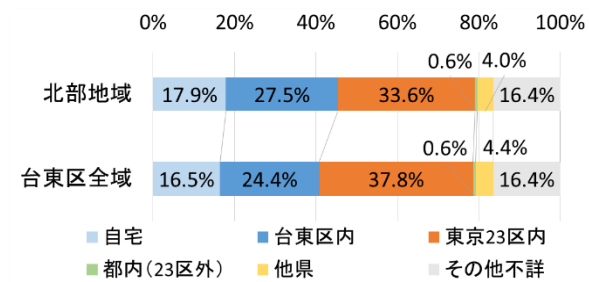
子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)



空き家分布 (H25)



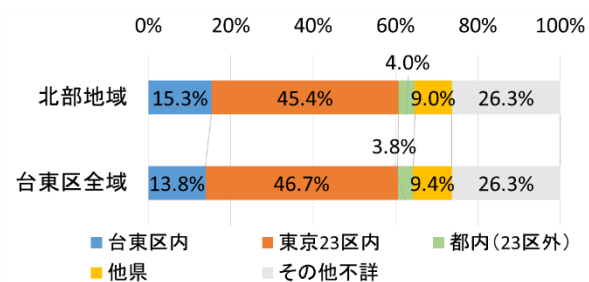
通勤人口 (H22)



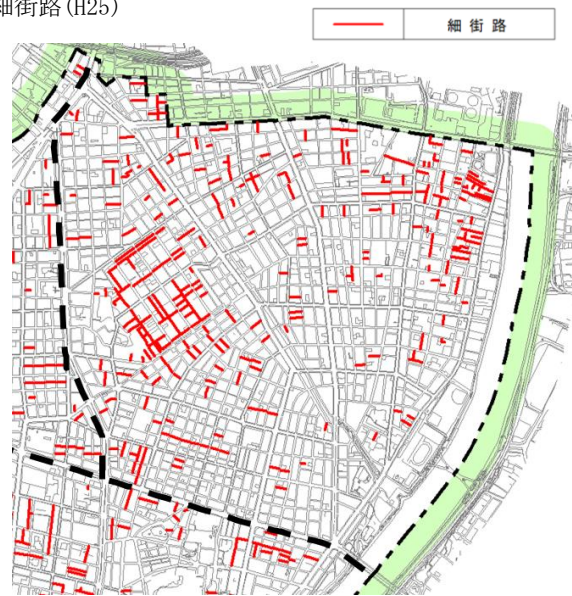
基盤(道路、交通)

都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

通学人口 (H22)

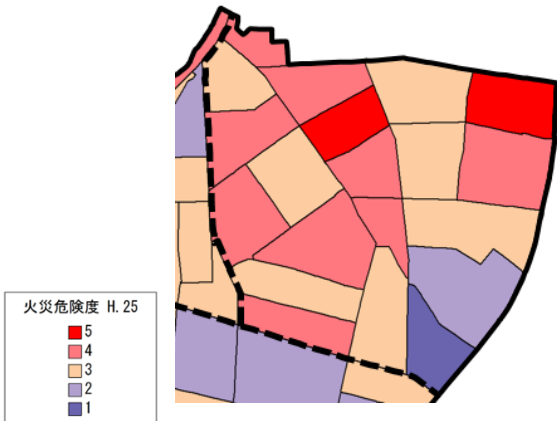


細街路 (H25)



防災

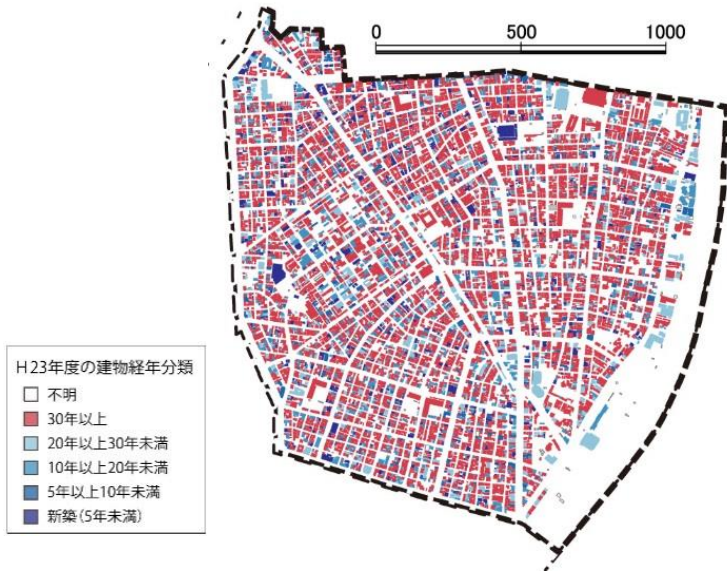
火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)

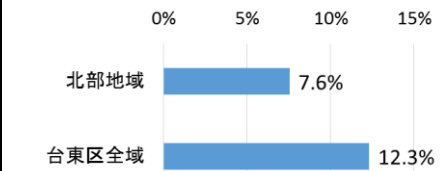


建物築年 (H23)

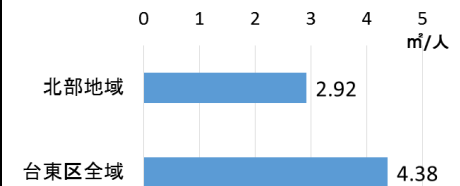


みどり・環境

緑被率 (H22)

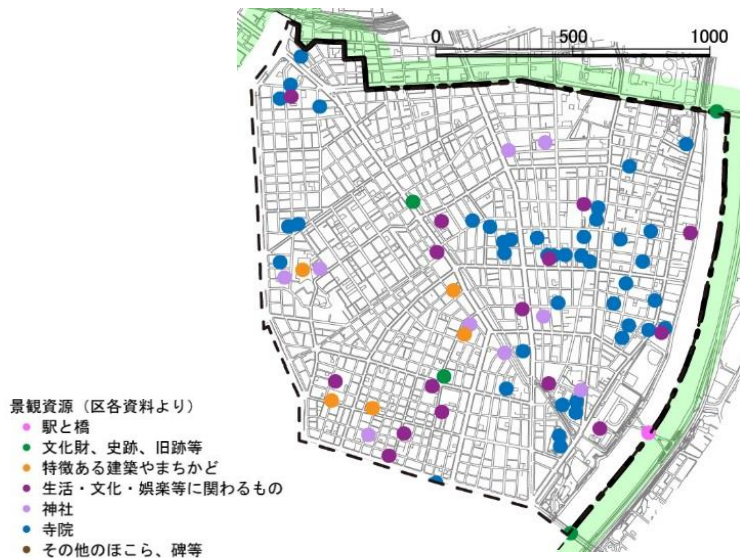


1人当たり公園面積 (H27)



景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

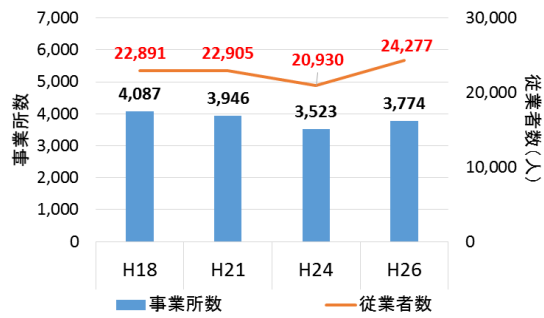
(該当データなし)

外国人観光客数 (H26)

(該当データなし)

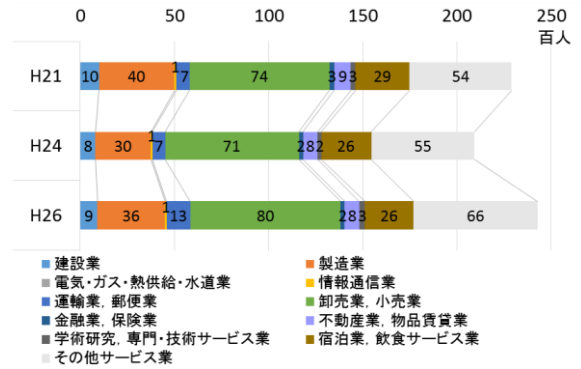
産業

事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26)



注) 公務を含まない。

産業別従業者数(H21, H24, H26)



まちづくりの動向

協議会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今戸二丁目地区市街地再開発準備組合(今戸2-26) <p style="text-align: right;">注) ()内は対象区域を示す。</p>
地区計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観まちづくり協定 ・ 千束通りコミュニティ商店街景観協定
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土手通り・地方橋通り地区都市防災不燃化促進事業 ・ 浅草地区都市再生整備計画
公共用地の活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧東京北部小包集中局跡地

意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)

「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区全体の結果と大きな違いは見られなかった。
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な交通環境の整備に向けて、「バス路線網の再編や運行本数の改善、定時運行の確保」を求める意見が多かった。 ・ 環境負荷の少ないまちづくりに向けて、「鉄道やバス等の公共交通や自転車の利用促進」を求める意見が多かった。 ・ 台東区の観光の振興に向けて、「観光バスの駐車場の整備」を求める意見が多かった。
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会への参加意向については、「参加したいが時間がない」との意見が多かった。

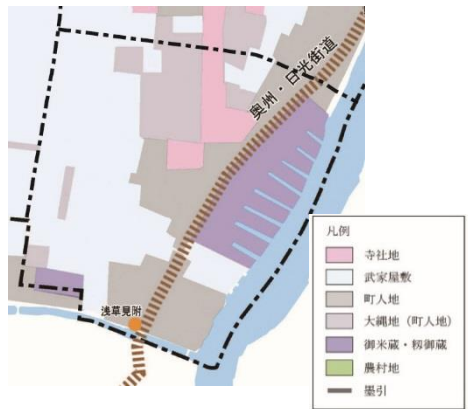


6. 南部地域

歴史的形成経緯(地域別歴史)

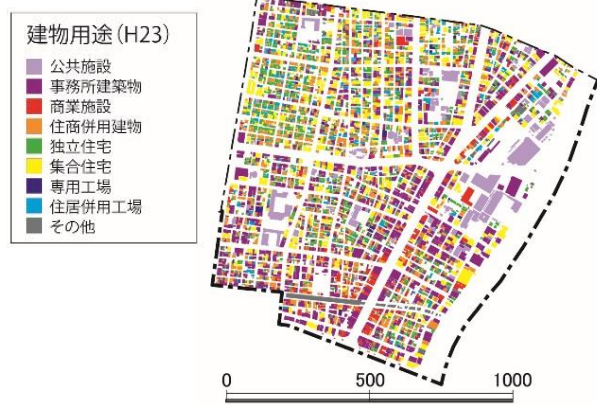
～江戸時代	江戸通りは奥州街道・日光街道として栄え、浅草御門が建てられ浅草橋が架かる等、交通の要衝として発展した。文房具、玩具を中心とする問屋街及びそれに関連する町工場街が形成された。蔵前には幕府の年貢米を貯蔵する浅草御蔵があった。江戸中期には柳橋付近に花街が形成され、賑わいがあった。
明治～戦後	地域の大部分が戦災の被害を受けた。おかず横丁は震災後の市区改正を機に発展した。
現在	江戸時代に形成された問屋街は、現在でも人形、玩具、手芸等の問屋・専門店街として受け継がれている。また、戦災を免れた一部地域では、戦前のデザイン性の高い建物が残っている。TX 新御徒町駅開業に伴い、高層マンションの供給が増加しており、商店街の衰退が課題となっている。

江戸期の町割りによる都市構造



土地利用(地域資源)

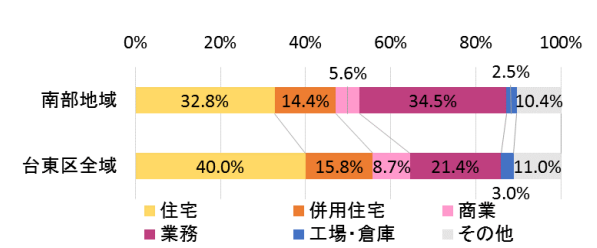
建物現況 (H23)



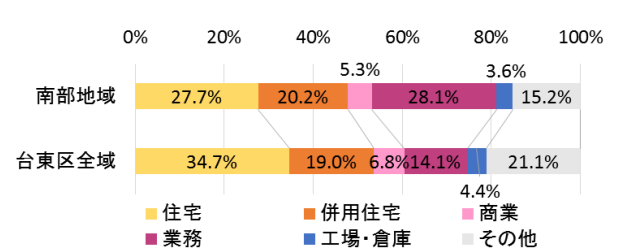
土地利用現況 (H23)



用途別延床面積 (H23)



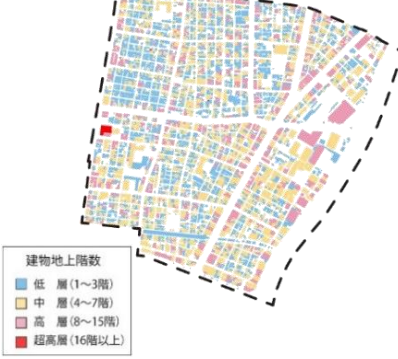
用途別土地面積 (H23)



集合住宅建築戸数 (H20～H24)



建物高さ (H23)



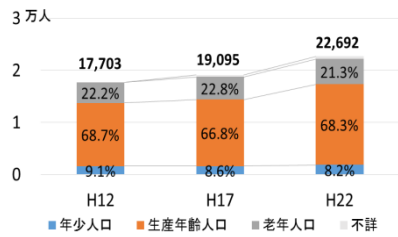
地区類型 (H23)



住民・住環境

人口密度 (H22) 南部地域 **185.18 人/ha** (※台東区全域 : 174.52 人/ha)

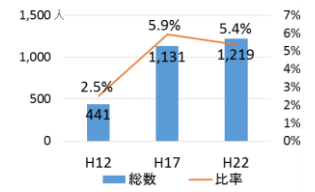
人口推移 (H12, H17, H22)



人口増減率 (H17/H12, H22/H17)

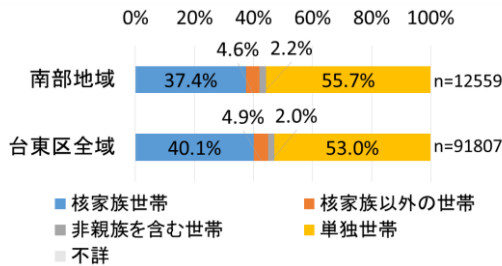
	H17/H12	H22/H17
南部地域	7.9%	18.8%
台東区全域	5.7%	6.5%

外国人人口 (H12, H17, H22)



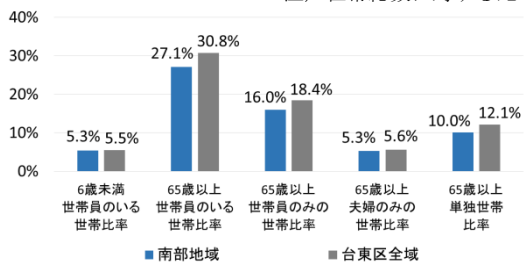
注) 外国人比率は、地域別人口総数に対する比率

世帯類型別構成 (H22)



子育て世帯・高齢者世帯比率 (H22)

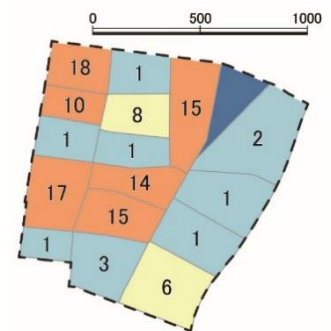
注) 世帯総数に対する比率



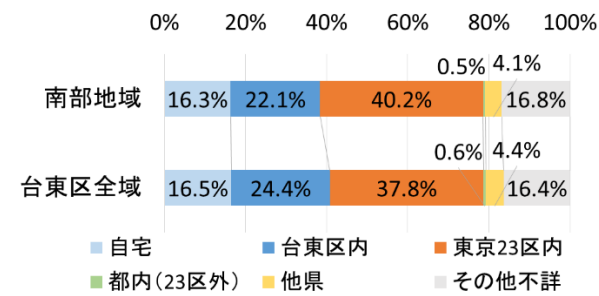
空き家分布 (H25)

空き家棟数(合計)

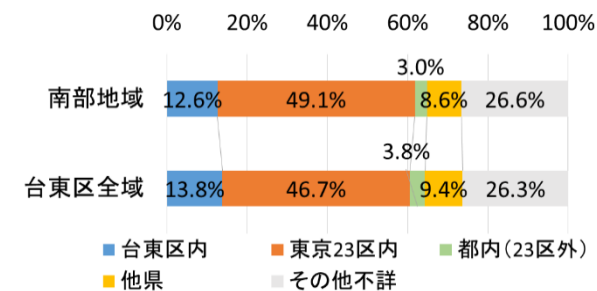
- 0
- 1~5棟
- 5~10棟
- 10~20棟
- 20棟以上



通勤人口 (H22)



通学人口 (H22)



基盤(道路、交通)

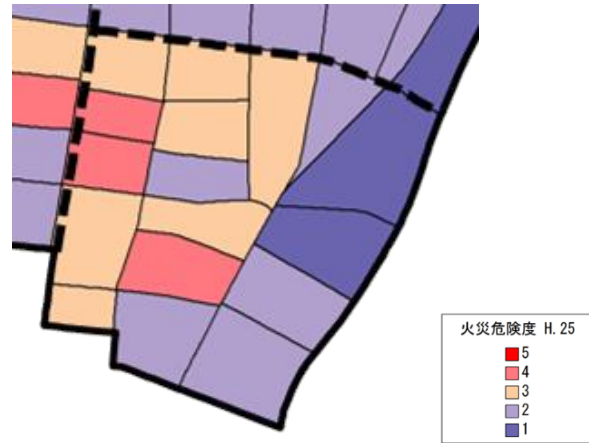
都市計画道路 (H25) 39 ページを参照

細街路 (H25)



防災

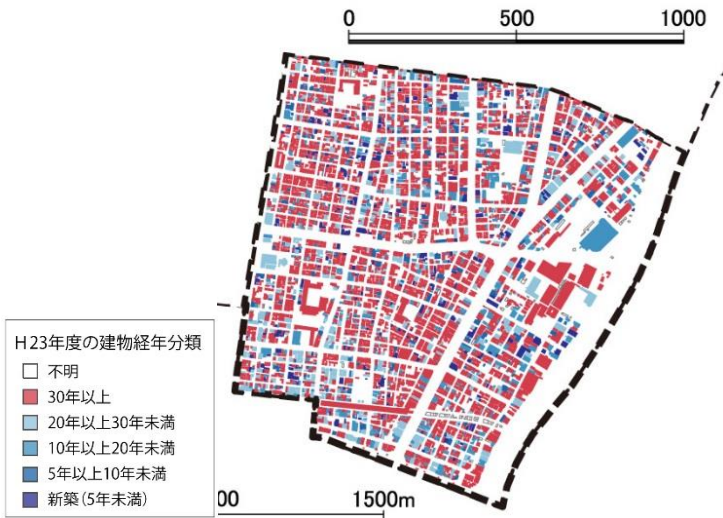
火災危険度 (H25)



水害履歴 (H25)

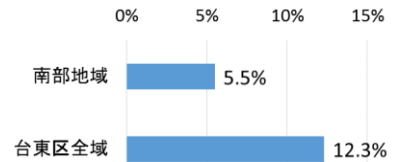


建物築年 (H23)

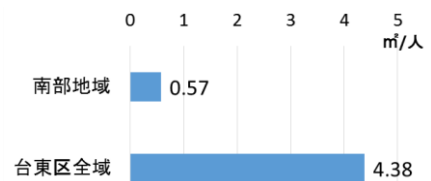


みどり・環境

緑被率 (H22)

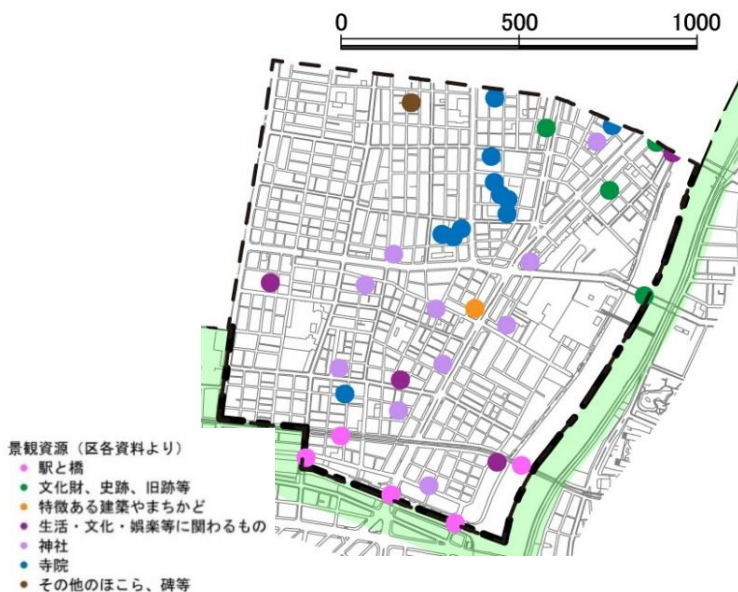


1人当り公園面積 (H27)



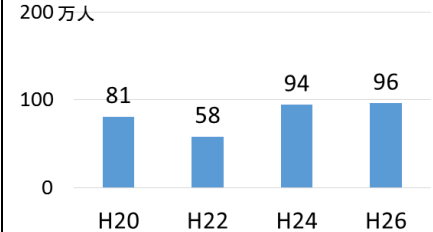
景観・文化・観光

景観資源マップ (景観資源、文化施設、観光資源)



年間観光客数 (H20, H22, H24, H26)

[浅草橋地区] 注) 地区別時系列比較のために、外国人年間宿泊観光客を除外

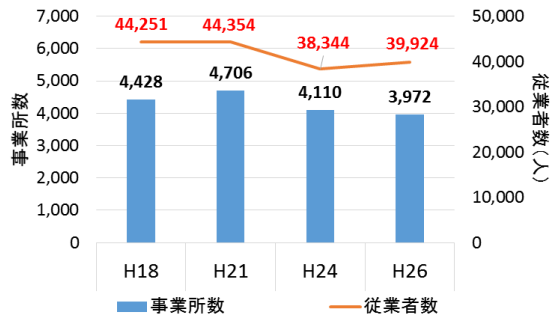


外国人観光客数 (H26)

浅草橋地区：約8万人
 (※台東区全域：約525万人)
 外国人観光客比率：約8.0%

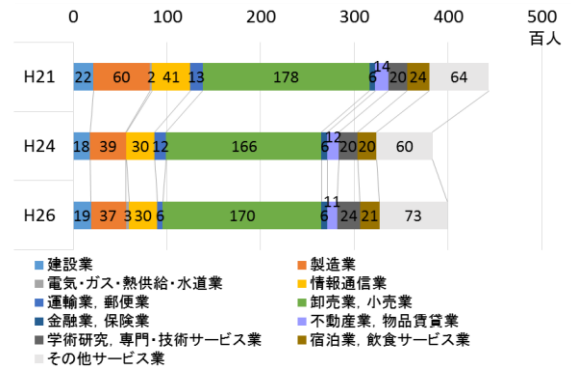
産業

事業所数及び従業者数(H18, H21, H24, H26)



注) 公務を含まない。

産業別従業者数(H21, H24, H26)



まちづくりの動向

協議会等	—
地区計画等	—
主要プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 旧福井中学校跡地活用事業（民間事業者による提案・整備） 台東デザイナーズビレッジの開設 浅草橋駅周辺整備 <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づく、交通事業者によるエレベーターの設置や多機能トイレの整備
公共用地の活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> 旧柳北小学校

意識調査における特徴的な傾向(区全体との比較)

「都市のイメージ」や「今後の発展の方向性」について	<ul style="list-style-type: none"> 区全体の結果と大きな違いは見られなかった。
個別のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 住み続けられるまちづくりに向けて、「子育てを支援する施設や住まいの誘導」を求める意見が多かった。 みどりなどによる潤いのあるまちづくりに向けて、「路地の緑化や壁面緑化など、街なかの緑化の推進」を求める意見が多かった。 台東区の観光の振興に向けて、「区内の観光スポットを巡るコースの整備」を求める意見が多かった。
まちづくりへの参加等への関心について	<ul style="list-style-type: none"> 協議会への参加意向については、「参加したいが時間がない」との意見が多かった。

(空白)